

平成25年度実施施策に係る政策評価書

別紙2

(環境省25-27)

施策名	目標6-1 環境リスクの評価				
施策の概要	化学物質による人の健康や生態系に対する環境リスクを体系的に評価				
達成すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>化学物質の環境実態調査を実施し、基礎資料として施策の策定に活用。化学物質の環境リスク初期評価調査を実施し、環境を経由した化学物質による影響の未然防止を図る。</li> <li>化学物質の内分泌かく乱作用について調査研究を実施し、各化学物質が人の健康や生態系に及ぼす影響について明らかにし、リスク評価を実施する。</li> <li>子どもの健康と環境に関する全国調査を実施し、次世代育成に係る健やかな環境の実現を図る。</li> </ul>				
施策の予算額・執行額等	区分	23年度	24年度	25年度	26年度
	当初予算(a)	5,521	5,281	4,615	5,304
	補正予算(b)	1,581	2,092	977	
	繰越し等(c)	(1,595)	(696)	(※記入は任意)	
	合計(a+b+c)	5,507	6,677	(※記入は任意)	
執行額(百万円)	5,167	5,860	(※記入は任意)		
施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)					

測定指標	① 環境リスク初期評価実施物質数	基準値	実績値					目標値	達成
		年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
	年度ごとの目標値	-	23	21	19	23	14	14	○
	② 化学物質環境実態調査を行った物質・媒体数	基準値	実績値					目標値	達成
	年度	-	103(129%)	95(119%)	98(122%)	86(108%)	53(66%)	80(100%)	×
	年度ごとの目標値	-	80	80	80	80	80		
	③ 内分泌かく乱作用に関して、文献等を踏まえ評価対象として選定した物質数	基準値	実績値					目標値	達成
	年度	-	27	40	63	85	107	100	○
	年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-		
	④ 子どもの健康と環境に関する全国調査の参加者(親子)数(累積)(人)	基準値	実績値					目標値	達成
	年度	-	-	-	30626	64572	101106	100000	○
	年度ごとの目標値	-	-	-	33000	68000	100000		

評価結果	目標達成度合いの測定結果	(各行政機関共通区分) 目標達成 (判断根拠) ①環境リスク初期評価のための基礎情報の収集・検討作業を推進し、目標としていた14物質について環境リスク初期評価をとりまとめ、公表した。 ②化学物質環境実態調査では、24年度達成率が108%であったが、25年度67%と目標に達しなかった。 ③化学物質の内分泌かく乱作用については、文献調査等を踏まえた評価対象物質の選定数について、平成22年7月に「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応—EXTEND2010—」(EXTEND2010)で設定した目標を超過達成した。 ④「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」については、基本計画に基づき、調査実施主体となるコアセンター、メディカルサポートセンター、全国15地域のユニットセンターにおいて調査実施体制を整備し、平成23年1月末から平成26年3月末までを参加者の募集・登録期間としており、平成26年3月に目標参加登録者数である10万人に到達した。
	施策の分析	①環境リスク初期評価については、平成9年度から平成25年度までに316物質について評価をとりまとめ、公表している。調査内容や対象物質数の見直しなどにより、調査の信頼性の確保を前提としつつ効率的な実施に努めている。 ②化学物質環境実態調査の結果については、それぞれの化学物質について調査要望を出していた関係課室にフィードバックし、それぞれの施策に活用された。昭和49年度から平成24年度までに1,236物質について調査を実施した。 ③化学物質の内分泌かく乱作用に関しては、試験法の開発や試験の実施を行っており、着実にリスク評価を進めている。 ④エコチル調査については、平成26年3月末で参加者の募集を終了したため、今後は質問票による追跡調査等を本格化する。
	次期目標等への反映の方向性	【施策】 ①環境リスク初期評価については、情報の収集・検討状況も踏まえ、平成26年度は14物質程度を目標とする。 ②今後も引き続き関係課室から要望があった化学物質の環境実態調査を行っていく。 ③化学物質の内分泌かく乱作用については、EXTEND2010の策定から約5年が経過しており、これまでの成果を踏まえた今後の計画(EXTEND2015(仮称))を策定した上で、検討をすすめていく。 ④エコチル調査を効率的・効果的に実施するためにも、質問票による追跡調査の追跡率を引き続き維持する必要がある。  【測定指標】 ①環境リスク初期評価については、引き続き、環境リスク初期評価実施物質数とする。 ②化学物質対策に係る各種施策を行う上で、規制物質の評価時に必要となる基礎データを提供できるよう、今後も引き続き化学物質環境実態調査を行った物質・媒体数を指標とする。 ③化学物質の内分泌かく乱作用については、EXTEND2010の中で定めた目標であるため、新たな計画が策定されるまで引き続き本指標を用いる。 ④エコチル調査については、平成26年3月に目標参加登録者数である10万人に達したため、今後は対象の方々に対して追跡調査を行い、その率を測定指標とする。

学識経験を有する者の知見の活用	①環境リスク初期評価に関しては、中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会において専門的な検討をいただいているところ。 ②中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会において専門的な検討をいただいているところ。 ③化学物質の内分泌かく乱作用に関する検討会において専門的な検討をいただいているところ。 ④エコチル調査企画評価委員会等において、本調査の企画、実施内容の評価及び本調査の成果を国際貢献につなげるための国際連携の方向性等について、検討を行っていただき、今後の調査実施に反映することとしている。
-----------------	--

政策評価を行う過程において使用した資料その他の情報	化学物質の環境リスク評価(第12巻) 平成25年度版「化学物質と環境」 子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)研究計画書
---------------------------	--

担当部局名	環境保健部 環境リスク評価室 環境安全課	作成責任者名 (※記入は任意)	政策評価実施時期	平成26年6月
-------	----------------------------	--------------------	----------	---------